

# 研 究 部

## 1. 基本方針

研究主題の達成をめざす研究活動を進め、本校の教育目標「心豊かに、進んで学び、生きる力を大切に  
するつつじが丘の子」の具現化を図る。

- (1) 研究の方向性を明確にし、教職員全体の共通理解を通して研修を行う。
- (2) 本校の子どもの実態をもとにした、期待する子ども像への変容をねらい、授業実践を大切に  
した研究をすすめる。
- (3) 各種研究会や講座への参加、先進校への視察等を通して、本校の研究の充実と教師としての資質  
向上を図る。

## 2. 研究主題

### 全員が「わかる・できる」国語科授業の創造

～「読解のための視点」を取り入れた授業づくり～

## 3. 主題設定の理由

本校では本副主題に取り組む前の4年間、国語科の共同研究に取り組んできている。その中の前半の2年では「キーワード」「キーセンテンス」にこだわって「読み」を深めたり、言葉に興味をもって詳しく調べたり、言葉を大切に自分の考えを書いたり、互いに伝えあったりする力を高めてきた。後半の2年では、前半の2年で見いだされた課題を克服することを目的に「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた国語科の授業の創造を目指して取組を進めてきた。「焦点化」「視覚化」「共有化」をキーワードに取組を進め、前半の2年より国語への意欲が高まり、どの子も高い関心をもって学習に臨めるようになったという一定の成果を得ることができた。反面、「焦点化」「視覚化」をすることで学びが平易になり過ぎ、深まりが生まれにくい場面ができるという課題も見出された。また「ユニバーサルデザイン」を取り入れた学習は、あくまでも「手立て」であるが、「視覚化」の準備が整わず通年の取組としては難しさがあったり、児童の変容の見取りの視点が曖昧であったりする実態も見られるようになった。

そこで、一昨年度よりこれまでの研究主題はそのままに、新しい副主題を設定して共同研究を進めていくこととした。これまでのユニバーサルデザインの取組で「視覚化」など有効と確認ができた手立ては、これからも児童の実態に合わせて活用し、一昨年度からは、児童の「読解のための視点」の獲得を目指している。この視点は、学習者の「獲得目標」となるため、変容の見取りが、これまでよりも明確にできると考える。また、これらの視点を獲得させていくには、場面ごとの詳細読みと並行して、題材文の全てを読解する「まるごと読み（フレームリーディング）」の視点での指導が必要となり、活動の中に「読解のための視点」を手立てとして盛り込む必要性が生まれてくる。こういった教育活動を通して、新学習指導要領で求められる「読解力」を向上させることができると考える。

## ～研究1～

## 4. めざす子どもの姿

- ・物語や説明文の読解や、言語活動に意欲的に取り組める子
- ・筆者や作者、話者が伝えたいことを論理的に読み取ることができる子
- ・学んだ内容を他の場面で活用できる子

## 5. 研究仮説

[仮説1]

さまざまな特性をもつ子どもの実態に応じて、言葉に触れたり、読解したりする手立てを工夫することで、どの子も意欲的に学習に参加できるようになるであろう。

[仮説2]

「読解のための視点」を共有しながら繰り返し学ぶことで、文章の構成・構造などの「論理」を習得できるようになるであろう。

[仮説3]

単元を貫く言語活動を意識した指導を継続的に行うことで、文章の構成や構造などの「論理」を活用できるようになるであろう。

## 6. 研究の内容と方法

(1) 年次計画

### 1年次 【平成27年度】

- ☆研究主題の決定、研究仮説・研究方法・研究組織の明確化
- ☆理論研修による共通理解の促進
- ☆研究授業の実施
- ☆研究・児童の変容の振り返り、まとめと次年度の方向性の確認

### 2年次 【平成28年度】

- ☆研究計画の共通理解と理論研修による共通理解の促進
- ☆1年次をふまえた仮説ごとの具体的な取組の内容の決定
- ☆研究授業による実践及び検証
  - 提案授業（研究部 1）、全校研（1～3年、4～6年 各1）
  - ブロック研（提案授業、全校研以外の先生方で原則1の交流）
- ☆研究・児童の変容の振り返り、まとめと次年度の方向性の確認

### 3年次 【平成29年度】

- ☆2年次をふまえた発展的な研究授業の実施および検証
- ☆研究計画の見直し
- ☆研究実践発表会の実施
- ☆研究・児童の変容の評価とまとめ
- ☆次年度の方向性の確認

～研究2～

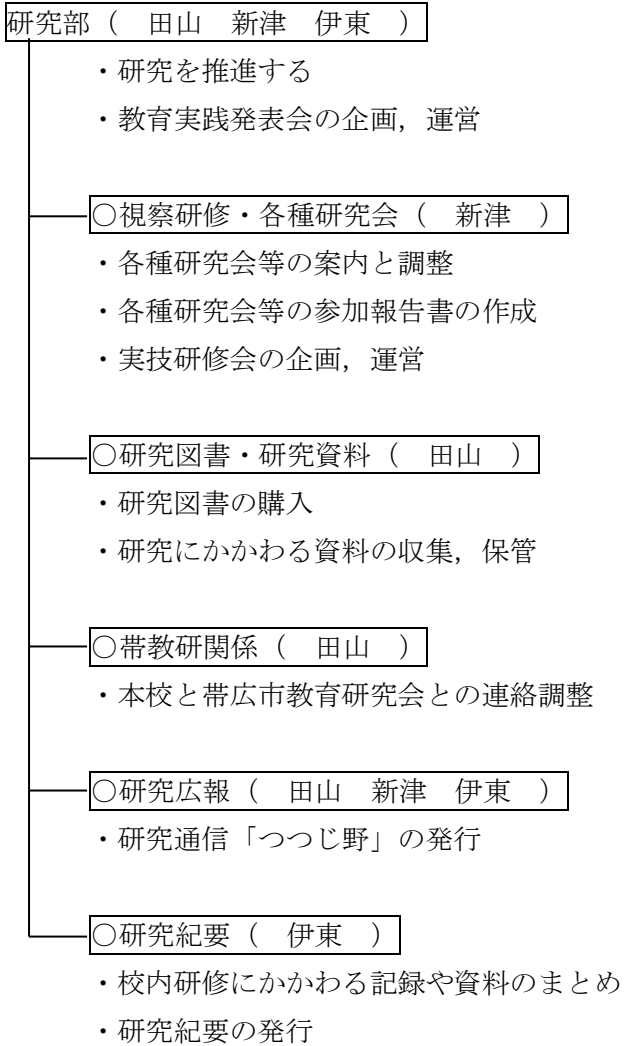
(2) ブロック体制

低学年（1～3年）高学年（4～6年）・特別支援（トレジャー・すこやか）の3ブロックを組織して、研究を進める。

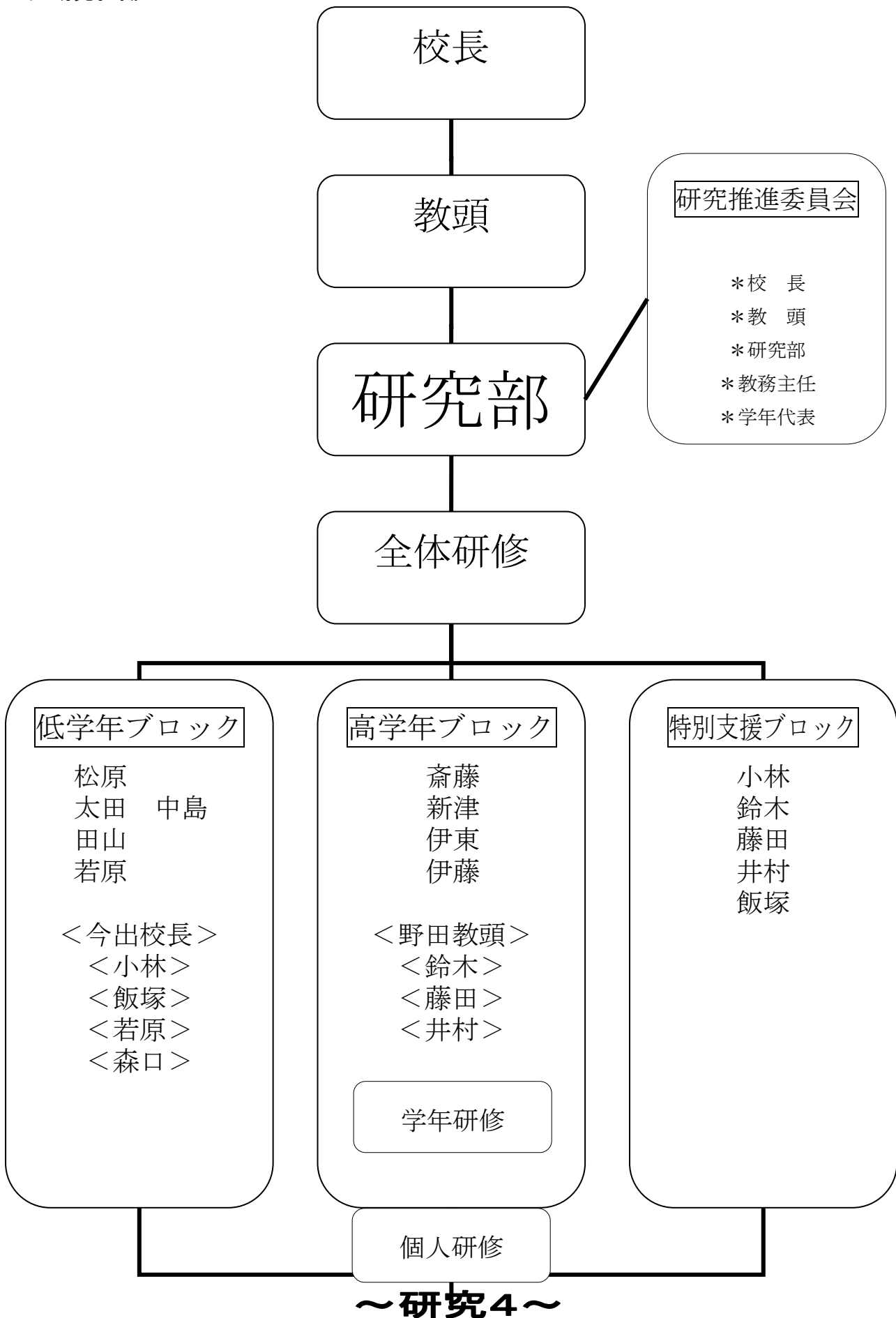
(3) その他

研究のまとめとして、研究紀要を作成する。

## 7. 研究部の役割分担



## 8. 研究組織



## 9. 年間研究推進計画

回	月	日	内容	形態	備考
1	4月	17日	研究の概要の確認、実践発表会の確認	全体	
2	5月	15日	授業研の持ち方、指導案の確認、 提案授業・ブロック研の担当協議	全体・ブロック	
3	5月	22日	実践発表会の題材の選定、確認	全体・ブロック	特割初日
4	6月	12日	提案授業と事後研（研究部）	全体	
5	6月	19日	全校研（ 年生）に向けたブロック協議/ 該当ブロック以外 実践発表会に向けての協議など	ブロック	
6	6月	26日	全校研（ 年生）に向けた全体協議～事前研～	全体	
7	7月	3日	全校研（ 年生） & 事後研	全体	
8	7月	10日	全校研（ 年生）に向けたブロック協議/ 該当ブロック以外 実践発表会に向けての協議など	ブロック	
9	8月	28日	全校研（ 年生）に向けた全体協議～事前研～	全体	
10	9月	4日	全校研（ 年生） & 事後研	全体	
11	9月	11日	実践発表会に向けての指導案検討①	ブロック	
12	10月	16日	実技研？	全体	学芸会直後
13	10月	23日	実践発表会に向けての指導案検討②	全体	
14	10月	30日	指導案の帳合作業、最終確認	全体	
15	11月	8日	実践発表会	全体	
16	11月	13日	実践発表会のアンケートから	全体	
17	11月	20日	実践発表会の反省	全体	
18	11月	27日	全校研（特別支援） 事前研	全体	
19	12月	11日	全校研（特別支援） 事後研	全体	
20	1月	29日	研修の成果と課題	ブロック	
21	2月	19日	研修の成果と課題	全体	
22	3月	5日	次年度の方針について	全体	

～研究5～

## 10. 研究の全体構造図



～研究6～